平成25年度　職員提案（一般提案・課題提案採用分）　提案数12件　採用5件

提案名	提案内容	現状・問題点	効果
パソコンの省エネモード拡充	パソコンの画面設定で、省エネのために暗くなるまでの時間を短くする。５分から１０分程度の時間に設定する。	パソコンの電源オプションは、各自では操作できない。現在の設定を見ると、モニタの電源を切るまで２０分となっている。 職員が席を離れている間、長い時間画面が点いており、また、せっかく省エネモードで画面が暗くなっても、ちょっとした振動で画面が点き、再び消えるまで長い時間がかかる。	画面の省エネモードは、１分から設定可能のようだが、１分では仕事でパソコンを使用している最中に頻繁に暗くなって邪魔になると思われる。しかし、現状のように放置時間２０分でようやく暗くなるのでは、省エネの設定としては長過ぎると思われる。 「シャットダウンをするほどではない離席」は、かなり多いと思われ、その時間は使用電力抑制の余地が大きいと考える。 全職員のパソコンの省エネモード設定を変更することにより、１台１台の省エネ効果はわずかでも、市役所全体の効果は大きいと考える。
相談室の改善について ～心が癒される相談環境～	市民からの相談を受ける相談室について、市民に安心感を与え、相談者の立場に立った市民サービスの向上を図るため、次のように相談室の改善を行う。 ① 室内に風景写真等（梅の公園や多摩川などの市内の風景）を掲示する（写真パネルは危険を避け樹脂性などの素材とする）。 ② 一部の相談室を、市立総合病院小児病棟の「癒しの壁画」のような心が癒される壁面にする。壁画の作成については、障がい者の方または明星大学生に作成協力を依頼する。	現在の相談室は、一部を除き室内が狭く、窓も無いなど閉鎖的な空間となっており、市民を温かく迎えて相談を受けるような室内環境ではないと感じます。 相談者は精神的な不安を抱えている場合が多く、子連れの市民からの相談も多いため、相談者が精神的に癒され、お子さんにも不安感を与えないような配慮が必要と考えます。	本提案は、精神的な市民サービスの向上を図る目的のため、数値的な成果指標は示すことはできませんが、堅苦しい市役所のイメージの改善に役立つものと考えます。 また、コストについては、写真は広報係から提供を受けることなどにより負担が少ないと考えます。壁画については、絵を描かれる障がい者の方に活躍の場を提供することができ、また、明星大学生に依頼する場合は大学との協働が図れるものと考えます。 福祉が充実したまちを目指す当市としては、相談者の不安感などに配慮する視点が必要と考えます。
本庁舎駐車場における車両事故防止策について	本庁舎駐車場における車両事故防止のため、地下駐車場と地上駐車場の合流地点において、「止まれ」表示の設置、誘導員の配置等を行う。	地下駐車場から地上へ上がった地点（地点Ａ）から、地上駐車場走行車両との合流地点（地点Ｂ）は死角となっているが、「とまれ」の表示も無く、誘導員もいないため非常に危険である。 特に、地下駐車場の出口はわかりづらく、地点Ｂ側から走行してくる車両は、左から車がでてくるという認識を持っていないことが予想される。	庁用車および一般来庁者による車両事故防止につながる。防止策であるため、成果指標としては、事故数０が理想である。
青梅市カレンダー発行	市民自らが市内で撮影し、風景を題材とした、青梅市の魅力が伝わる写真を公募し、採用作品をカレンダーに掲載し、２，０００部程度を発行する。 民間企業・事業主の広告宣伝欄を下部に設け、広告収入でカレンダー発行費用を賄い、市民・観光客等へ無料配布をする。	現在、年２回、広報おうめを通して写真等の作品募集を行っており、毎回多数の応募があることから作品は集まると考える。 カレンダーは通常、年間を通して視界に入る場所へ掲示しておく物であるため、民間企業・事業主の広告宣伝効果は非常に高いと思われるが、その魅力を上手く伝え、広告主を集められるか否かという課題が残る。	① 採用された市民に対しては作品を発表する場を提供することができ、大きな思い出ともなりうる。 ② 市民へ配布することにより、市民が青梅市内の魅力を再認識することに繋がる。 ③ 市外から来た観光客へも配布し、自宅等で使用してもらうことにより年間を通して青梅市の魅力を視覚的に訴え、観光のリピートを促すことができる。 ④ 市内に本社を置く民間企業・事業主を中心に宣伝の機会を提供し、地域経済の活性化に繋がる可能性を秘めている。また、業績が伸びた場合、法人市民税収入の増加が期待される。
自動車差押用タイヤロックの展示と納税関連ホームページの充実	①　市税滞納者への差押方法として導入している自動車のタイヤロックの実物を、来庁者向けＰＲ用としてタイヤと共に市役所１階ホールに展示する。 ②　タイヤロックの様子を市広報、ホームページへ写真を掲載するほか、税に関するＦＡＱ（よくある質問）を設けるなどホームページを充実し、市民の知りたい情報を詳細に提供する。	①　市長との懇談会等で「財政が厳しい」という言葉が、要望を受けられない理由として使われることがあるが、本当に金がないのかと、地元自治会や自治会長の会議等で話題になる。 平成２４年度行政報告を見ると、市税は現年だけでも３億４千万円以上の未収があり、滞納繰越分を含めれば、市税の６％以上の１４億円弱の未収があることを考えると、自治会長等の疑問もうなずける。 自治会に加入する自営業の人からは、店の売上の１０％の入金がなければ、倒産を心配すると言われた。市税全体への割合は小さいが、現年で１億７千万円以上、滞納繰越分５億３千万以上の未収額がある個人市民税に対し、特に不公平感を持たれていた。 本来、公平であるべき納税が低い収納率により、納税者である市民の納税意欲の減退に繋がるとともに、市に対する不信感が生じる恐れがある。自主財源としての市税収納率の更なる向上が課題である。 ②　昨年開催された市長との懇談会では、差押の手段として、タイヤロックによる自動車差押を実施しているとの発言があったそうだが、青梅市広報やホームページには、タイヤロックの言葉はあるが、その説明や写真の掲載もされたことは無く、ほとんどの市民は知らないと思われる。また、納税に関するホームページ自体も項目も少なく、掲載の内容が少ない。 ③　東村山市や瑞穂町では、それぞれのホームページにタイヤロックによる自動車差押の様子が掲載されている。 ④　市税収納率トップを誇る市のホームページは、納税に関するページに多くの項目を設け詳細に掲載しているほか、ＦＡＱ（よくある質問）を設け、質問者への事前の情報提供を行っている。 ⑤　タイヤロックを展示する場合は、子供等が触れても倒れたりしないように、既に展示している先進市を参考に危険防止対策をした展示設備の設置が必要である。	①　市民へ市税滞納者に対する市の毅然とした姿勢を見せることで、納税に対する不公平感の解消を目指すとともに、市税に対する認識を改めさせる。また、分納等を行っている場合は、分納契約遵守の意識を持たせ市税収納率を上げる。 ②　生活や仕事を営む上で必要な自動車の差押方法を、市民に公開することで、市税を滞納した場合の状況を認識してもらう。 ③　ＦＡＱ（よくある質問）や市民の知りたい情報を詳細に提供することで、市民からの問い合わせ電話対応等の省力化が図れる。